

株式会社 奥脇製作所



精密板金加工業

- 代表者名 代表取締役 奥脇 弘泰
- 設立年月日 2003年(平成15年)10月
- 所在地 〒402-0025 山梨県都留市法能1031
- TEL 0554-43-5515
- FAX 0554-43-5400
- E-Mail okuwaki_ss@ybb.ne.jp
- URL http://okuwaki-ss.com
- 業 種 金属製品製造業
- 資本金額 300万円 ■ 従業員数 40人

インタビュー



代表取締役
奥脇 弘泰

テーマ

ハイエンドベンディングマシン導入および曲げ加工プロセスの確立による海外向けガソリン計量機部品の低コスト化

計量機部品の曲げ工程における段取り工数の削減による低コスト化を目的に、ハイエンドベンディングマシンを導入。能力の向上と条件出しの敏速化によるリードタイムの削減、熟練技術を要さないことによる社内不良数の低減、省エネ機能によるランニングコストの削減等を達成し、計量機部品の低価格化を実現した。



今回導入した最新鋭のハイエンドベンディングマシン

精密板金加工業を手掛けている奥脇製作所は、ガソリン計量器や工作機械、医療関係装置などの部品、業務用乾燥機本体などを製造している。

ガソリン計量器部品は新興国企業と比べて品質では上回っているものの価格的に負けてしまい、既存のメーカーから受注してきた製品が他国に流れていくことが起きている。品質を落とすことなく低価格化を図ることは急務であり、なかでも最も工数がかかる曲げ加工において効率化による低コスト化が必要だった。

そこであらゆる曲げ形状の加工が可能で、ネットワークデータ転送機能や高精度位置決め機構などを備えた世界最高速、高精度加工の最新鋭ハイエンドベンディングマシンを導入し、計量機部品の曲げ加工プロセスの確立に取り組んだ。

従来の曲げ加工機では曲げ寸法の入力には作業者が曲げ伸びしろを計算して入力するなど段取りに多くの時間を要し、曲げ角度には作業者の感覚が求められ、経験や技術が最も必要だった。そのため作業する人が熟練者に限定された。また作業的にミスをしやすいため無駄が多く、作業コストがかかるため低価格が難しかった。

新たに導入したハイエンドベンディングマシンは加工機の基本操作とモニター操作を習得することで、曲げ金型の選定から設定位置、曲げ寸法、曲げ角度、曲げ順序、曲げ方向に至るまで、すべての加工操作をモニター画面に従って行えば誰でも簡単にでき、熟練者でも未経験者でもほぼ差のない品質を維持する事が可能となった。

また作業時間も大幅な短縮が可能になった。従来の曲げ加工機では一つ一つの段取りに時間がかかるとともに、一工程ごとに作業台から製品を取ったり置いたりして曲げなければならず、1ロット終了するのに約8時間かかった。

一方、新たに導入したハイエンドベンディングマシンは使用する金型の選定、金型設置位置がひと目でわかるので大幅な段取り時間の短縮ができ、曲げ工数もすべての金型を配置して一つの製品について連続で曲げを行うので無駄がない。これにより加工時間は圧倒的に短縮され、1ロットを4時間30分で終了することができ、約45%の工数削減を図ることができた。

さらに省エネ機能によりランニングコストの削減ができ、約10%あった不良率も1%以下まで落とすことができた。これらにより、計量器部品の低コスト化を実現した。



すべての加工操作がモニター画面に表示される

従業員の生産能力の高さが自慢



さまざまな種類、サイズの部品がつくられている製造現場

「当社はここ数年、自慢できる生産能力になっています。生産性は異常なぐらい高いと思いますよ」。笑顔でそう語るのは、奥脇製作所の舵を取っている奥脇弘泰社長だ。

社長のいう高い生産能力というのは、設備のことだけではない。それ以上に力を発揮しているのが「人」だという。

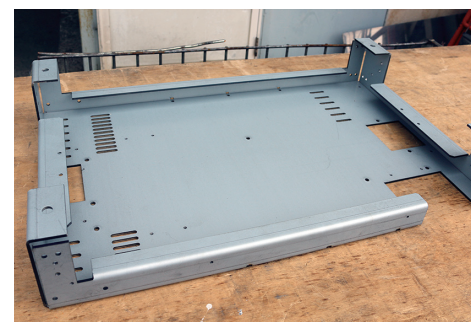
「製造業はコスト勝負の時代ですが、当社がコストだけで勝負しないでいられるのは、顧客からの厳しいニーズ、無理難題と思われる要求にもしっかりと応えられているからです。それを可能にしているのが従業員です。どんなに忙しい日も続い

ても、作業が終わっていないまま帰る人は1人もいません。どんなに厳しいスケジュールでもなんとかこなしてしまう。それは従業員みんなの気持ちによるところが大きい。この生産能力の高さが当社の自慢であり、文化です」と自信に満ちた表情で語る。

でもそれは意識してつくりあげてきたものではなく、また社長から細かい指示を出すこともないという。「各部署のリーダーに納期を伝えたら、あとは現場に自由に任せています。あれこれ指示を出すと、指示したこと以外はできなくなってしまいますからね。そうやって取り組んできて、ふと気付いたら、すごい会社になっていました。本当のところ、何でこうなったのか分かりませんから」と笑顔を見せる。

そんな従業員に寄せる信頼は絶大だ。「取引先でとても苦しい要求を出されても、みんなならこなせるだろうという安心感がいつもあります。そしてこの生産性の高さが、顧客の安心感と信頼につながっています」と満足そうにうなずく。

一人一人がやりがいを持って働ける職場に



ハイエンドベンディングマシンで曲げ加工した完成品

今回の最新鋭のベンディングマシンの導入は生産性の向上による低コスト化が最大の目的だが、そこには従業員への思いも含まれているのだろう。

奥脇社長は「従業員がやりがいを持って仕事ができる職場、仕事をしやすい環境をつくることを大切にしたいと思っています」と力を込める。より働きやすく、より質の高い仕事にチャレンジできる環境づくりも、社長が重要視していることだ。

また社長は若い頃から現場を経験してきていて、今も欠勤の人がいる時にはその部署に自ら入るそうで、「従業員と同じ目線で取り組めることも大事です。一緒に取り組んでいる仕事から伝わってくるものも多いですから」と現場だからこそ感じられることの大切さを実感している。そんな社長の姿勢が独自の社風や文化を育んできたのだろう。

導入したベンディングマシンは現在、曲げ加工

作業の主力として活躍していて、狙いどおり生産性の向上とコストの低減を実現している。海外向け計量器の受注の大幅増加にまでは至っていないが、少しずつ増えてきているようで、「生産性は確実に上がっているの、その効果は大きい」と社長はうなずく。

「目標は大きくいいいますが、夢で終わってしまうものではダメだと思うんです。当社の目標は最低でも現状維持をしていくこと。おかげさまで毎年少しずつ業績は伸びているので、これからも安定した経営をしていくことが目標です。そして何より、やりがいのある職場づくりを大切にしていきたいと思っています。」

背伸びし過ぎず、一気に飛び越えることなく、社員とともに一歩ずつ前進してきている同社。その歩みはとても力強く、確かな道を築いてきている。そしてこれからも止まることなく、進み続けていこう。



工場内には曲げ加工設備が揃っている